研究報告

# 高齢者の主観的健康感と幸福感，うつに関連する要因および孫の世話との関係のシステマティックレビュー

喬　楚薇[1)]，松田ひとみ[2)]

【目的】本研究は高齢者の主観的健康感と幸福感、うつ及び孫の世話との関係に着目し、システマティックレビューを通して研究の質と課題を明らかにすることを目的とした。
【方法】高齢者の主観的健康感と幸福感、うつに関する文献を網羅し、孫の世話に着目し、システマティックレビューによりエビデンスレベルを分類した。
【結果】抽出された文献は 13 件であり、レベルⅡとレベルⅢに該当する文献は無く、レベルⅠのシステマティックレビューは 1 件、レベルⅣb が 12 件であった。
【結論】高齢者の主観的健康感と幸福感、うつにおいて、孫の世話との関連性についての研究はまだ少ないため、今後更に集積する必要がある。孫の世話は高齢者の主観的健康感と幸福感、うつとの問題を総合的に関連させる意義と科学的な検証の必要性があると考えられた。

キーワード：高齢者，孫，主観的健康感，主観的幸福感，うつ

[1)] 筑波大学大学院人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻
[2)] 筑波大学医学医療系

## Ⅰ．はじめに

WHO 憲章において、「健康」の定義は病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることである[1)]。この定義により、身体的な健康だけではなく、精神的な健康も重要であることが考えられる。主観的健康感は身体的健康と共に精神的健康についても総合的に反映できるため、集団でも個人レベルでも有用な健康指標の一つとされている。高齢者の主観的健康感に関連する要因は、子・孫と同居していること、抑うつ程度、主観的幸福感、家族関係、経済等と示された[2)]。一方、高齢者が「孫と関わることは自己の生命が途絶えても、精神が次世代に引き継がれる信頼を形成し、そのことが死への不安を和らげる。多くの高齢者はどのくらいあるかわからない自分の未来への不安に対し、孫は『無限に未来に伸びる自分自身の延長』となり気持ちの安定を取り戻す要因である」と述べている。更に孫の持つ「世代継承性促進機能」は、祖父母の主観的健康感と強く関連している事を示している[3)]。孫との関係は高齢者の精神的健康を向上する対策になる可能性があると考えられる。

したがって、本研究では高齢者の精神的健康を向上するため、高齢者の主観的健康感と幸福感、うつと孫の世話との関連性を検討することを目的とした。

## Ⅱ．方　法

### １．文献の抽出方法

データベースを用いた文献検索を実施した。

日本国内文献の検索には医中誌 web（1976 ～ 2016 年）、CiNii（1996 ～ 2016 年）を使用し、キーワードには「高齢者」、「孫」、「主観的健康感 or 自覚的健康度 or 健康度自己評価」、「主観的幸福感 or 精神的幸福度」及び「うつ or うつ病 or 抑うつ」を用いた。

海外文献の検索には PubMed（1835 ～ 2016 年）を使用し、キーワードは「elderly」or 「aged」、「grandchild」、「subjective health」or「perceived health」or「health　perception」、「happiness」or「subjective well-being」、及び「depression」or「depressed」or「depressive state」とした。その上、中国のデータベース Cnki（1928 ～ 2016 年）を使用し、キーワードは「老年人」、「孫」、「主观健康感」、「主观幸福感」、及び「抑郁」とした。

抽出された文献の中から①系統的文献レビュー以外の総説や解説、②会議録、③症例報告、④疾患、高齢者向けの住宅や品物などの開発に関する研究を除外した。

### ２．文献の分析方法

抽出された文献ごとにデザイン、著者、刊行年、対象者、方法、評価法、結果、エビデンスレベルに関する記述を整理し、アブストラクトフォームを作成した。またエビデンスレベルの分類は、医療情報サービス Minds らが提供する「診療ガイドライン作成の手引き 2007[4)]」によって実施した。

表 1　エビデンスレベルの分類基準

| エビデンスレベル | 分類基準 |
|---|---|
| Ⅰ | システマティックレビュー /RCT のメタアナリシス |
| Ⅱ | １つ以上のランダム化比較試験による |
| Ⅲ | 非ランダム化比較試験による |
| Ⅳ a | 分析医学的研究（コホート研究） |
| Ⅳ b | 分析医学的研究（症例対照研究・横断研究） |
| Ⅴ | 記述研究（症例報告やケースシリーズ） |
| Ⅵ | 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 |

## Ⅲ．結　果

### １．検索結果

2016 年 6 月 10 日に検索を行い、その結果は表 2 にまとめた。上述の除外基準に従って除外し、最終的に 13 件の文献を抽出された。これらの文献をまとめて、アブストラクトフォームを表 3 に示す。

### ２．各文献のエビデンスレベル

「診療ガイドライン作成の手引き」に基づいて分類を実施した。レベルⅡとレベルⅢに該当する文献は無く、レベルⅠのシステマ

表 2　各データベースを用いた検索結果

検索年月日：平成 28 年 6 月 10 日

| | 検索式 | 文献データベース | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 医中誌 web（1976 ～ 2016） | CiNii（1996 ～ 2016） | PubMed（1835 ～ 2016） | Cnki（1928 ～ 2016） |
| ① | 高齢者 /「elderly」or「aged」/ 老年人 | 336874 | 97968 | 4431893 | 211962 |
| ② | 孫 /「grandchild」/ 孫 | 1901 | 18966 | 307 | 8141254 |
| ③ | ①＋② | 343 | 138 | 194 | 266281 |
| ④ | 主観的健康感 or 自覚的健康度 or 健康度自己評価 /「subjective health」or「perceived health」or「health perception/ 主观健康感 | 542 | 596 | 154009 | 51 |
| ⑤ | 主観的幸福感 or 精神的幸福度 /「happiness」or「subjective well-being」/ 主观幸福感 | 262 | 570 | 44630 | 27824 |
| ⑥ | うつ or うつ病 or 抑うつ /「depression」or「depressed」or「depressive state」/ 抑郁 | 21229 | 22747 | 438791 | 655086 |
| ⑦ | ④＋③ | 6 | 3 | 14 | 0 |
| ⑧ | ⑤＋③ | 4 | 2 | 6 | 14 |
| ⑨ | ⑥＋③ | 17 | 3 | 21 | 227 |
| ⑩ | ③＋④ or ⑤ or ⑥ | 22 | 7 | 37 | 240 |

ティックレビューは 1 件、レベルⅣ b が 12 件であった。

## ３．研究参加者の特性

高齢者の特性については、地域在宅高齢者を対象とした研究は 12 件､医療福祉センターに通所している高齢者を対象とした研究は 1 件であった。

## ４．方法

抽出された研究は、アンケート調査は 9 件で､面接法は 3 件､システマティックレビューは 1 件であった。

## ５．評価指標

### 5.1 調査項目

高齢者の年齢、性別、家族構成、健康状態、居住状態、認知機能、身体機能、ライフスタイル、孫との交流状態、孫の世話をする状態などが調査された。

### 5.2 評価尺度

主観的健康感を使った研究が 3 件で、GDS を使った研究は 3 件で、Zung の自己評価式抑うつ尺度を使った研究は 1 件で、PGC モラールスケールを使った研究は 2 件であった。孫に関わる尺度が最も多く、5 件であった。その中に、孫−祖父母関係評価尺度、祖母と孫との交流状態、祖母と孫との関係性、孫ケア尺度、孫世代に依存する程度と孫の世話をする状態は 1 件ずつであった。

## ６．結果

### 6.1 孫の存在は高齢者に良い影響を与える

孫の存在は高齢者にとって良い影響を与えると示された｡孫の世話をしている高齢者は、生活満足度と精神状況が良く、抑うつ、孤独感が低いとも示された。さらに、74.2％の高齢者が孫の世話をしたがると表し、孫の世話は自分の義務として、楽しくてたまらないと示された [9]。したがって、孫の世話は高齢者のうつ程度の低下と関連していることが考えられる。

なお、現在の生きがいについては、6 割以上の祖父母が孫の世話を生きがいと感じていることが示された [7]。また子どもとの教育理

表 3　アブストラクトフォーム

| 研究デザイン | 著者・年 | 対象協力者（分析対象者） | 方法 | 評価法 | 結果 | エビデンスレベル |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 横断研究 | 1、橋本(2012) | 山形市内の老人福祉センターに通所する 65 歳以上の高齢者で、中学生、高校生または大学生の孫を持つ人 77 名 | ・面接法 | ① GDS<br>②主観的健康感<br>③孫ー祖父母関係評価尺度 | ①孫の存在は、高齢者の心理的・精神的健康状態に影響を与え、その中でも特に「Ⅳ、世代継承性促進機能」と「Ⅰ、時間的展望促進機能」に関連が認められた。<br>②孫の存在は、主観的健康感に影響を与え、ひいてはサクセスフル・エイジングの達成に寄与するものと考えられた。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 2、藤原ら（2006） | REPRINTS に参加した高齢者 | ・アンケート調査 | ①基本属性<br>②心理的特性（主観的健康感、GDS、自尊心尺度）<br>③社会的ネットワーク<br>④社会的サポート<br>⑤認知機能<br>⑥身体機能検査 | ①ボランティア群が有意に高かったが、孫との交流頻度は対照群が有意に高かった。<br>②社会的ネットワーク得点においてボランティア群は対照群に比べて友人・近隣の人からの受領サポート得点は有意に減少したが、提供サポート得点は有意に増加した。<br>③ボランティア群は対照群に比べて地域共生意識得点の「地域に愛着と誇りを持つ」、健康度自己評価、及び握力に置いて有意な改善または低下の抑制が見られた。 | Ⅳ b |
| 断面研究 | ３、芳賀ら（2003） | 沖縄県今帰仁村に住む 65 歳以上の高齢者 955 人 | ・面接法 | ①基本属性<br>②抑うつ尺度（GDS）<br>③生活満足度（LSIK）<br>④ライフスタイル | ①男性では「子・孫との同居世帯」のサクセスフル・エイジングの判定は最も高かった。一方、女性ではサクセスフ・エイジングルの判定はむしろ「一人暮らし」で最も高かった。<br>②過去一年の入院歴「なし」、社会的ライフスタイル得点「高い」、抑うつ度「低い」、生活満足度「高い」などの特徴を有する者はサクセスフル・エイジングと判定される傾向にあることが示された。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | ４、宮中（2001） | 京都市および隣接する５保健所管区内における３～５歳児を持つ母親と同居または近隣に居住し孫と何らかの養育的かかわりのある祖母 528 人 | ・質問紙 | (1) 心理的健康に関する項目：Zung の自己評価式抑うつ尺度、PGC モラールスケール<br>(2) 祖母の特徴に関する項目：基本属性、健康度自己評価、老研式生活活動能力指標、生きがい感<br>(3) 祖母の子育て参加に関する項目 | ①身体的健康は、精神的健康に強く影響すると考えられた。<br>②子どもの感性により大人の感性の若返りや喜びを生み出す効果があるのではないかと思われる。<br>③中高年女性では、孫と関わるライフスタイルを主体的に選択すること、母親との豊かな人間関係、遊びを中心とした子育て参加をすることなどを通して、その中で幸福感を見出していくことが、心の健康にプラスに影響すると考えられる。 | Ⅳ b |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 横断研究 | 5、<br>平賀<br>（2010） | 本学の短期大学部女子109名に授業の一環として、祖父母世代に訪問面接聴取を実施させた。 | ・面接法 | ① Ryff の主観的幸福感<br>② Lawton の改訂 PGC モラール・スケール | ①心理的動揺が高ければ、否定的感情も高まり、逆に否定的感情が高ければ、心理的動揺を高めるというものである。<br>②肯定的感情が低く、また人生への満足が低ければ孤独感・不満足感も高まることを示唆している。<br>③健康状態が徐々に悪くなるという年齢の効果を示唆している。<br>④肯定的感情と人生への満足が低く、孫との距離が遠いほど、また学歴が高いほど「孤独感・不満足感」を高めるようである。<br>⑤ Ryff らの２つの尺度と Lawton の３つの尺度との間には強い相関があり、「肯定的感情」と Lawton の３つの尺度ではマイナス、「否定的感情」との間ではプラスの強い相関を示した。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 6、<br>笠波ら<br>（2010） | 孫を持ち「孫育て」をしていると認識している祖母171名を対象にした。 | ・アンケート調査 | ①祖母の属性<br>②祖母の主観的幸福感<br>③祖母と孫との交流状態<br>④祖母と孫との関係性 | 祖母が孫育てに関わることによって、生きがいと幸福感を感じていること明らかとなった。そのことで、祖母だけではなく両親や孫にもいい影響を及ぼすのではないかと考える。そこで、祖母の子育て支援の力「祖母力」を、血縁の有無に関係なく、祖母世代が社会に何らかの形で貢献できるように、世代間の交流を進めることが必要ではないかと考える。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 7、<br>Shirley<br>（2013） | 246名のイスラエルの祖父母 | ・アンケート調査 | ① The parenting Stress Index<br>② Cognitive appraisal scale<br>③ Satisfaction with life scale<br>④ sociodemographic questionnaire | ①高齢者の年齢は祖父母のストレスと正的な関係がある。<br>②高齢者の健康状態と経済状況が良好で有れば、祖父母としてのストレスを感じることが少ない。<br>③健康状態が良い、経済状況が良い、年齢が低いとストレスが低いなら、生活満足度が高める。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 8、<br>Carol ら<br>（2010） | オハイオ州の485名祖母 | ・アンケート調査 | ①基本属性<br>②介護ストレス<br>③社会的支援<br>④認知機能<br>⑤身体と心理的健康状態<br>⑥家族に対する役割 | 祖母が孫の世話をすると、ストレスが多く、家族問題があり、体調が悪ければ鬱傾向があり、報酬と自覚的サポートが最も少ない。世話するレベルが高ければ、健康状態が悪く、ストレスが高く、家庭役割に関する問題が出てくる。 | Ⅳ b |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 横断研究 | 9、Tsai ら（2013） | 台湾の中年と高齢者 4534 名 | ・アンケート調査 | ①基本属性<br>②主観的健康感<br>③ CES-D スケール | 結論として、研究結果は、台湾で時間をかけて祖父母のうつ病と孤独に祖父母が提供する孫の世話の影響力が増大することを実証する。より多くの孫の世話を提供する高齢者は、改善された心理状態を持っていたことを示しています。しかし、また、孫が高齢者の身体的および精神的健康に負の影響を与える可能性があると認識している。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 10、Mary ら（2006） | 退職した 50 歳～ 80 歳の祖父母 12872 名 | ・アンケート調査 | ①孫ケアの尺度<br>②健康対策<br>③基本属性 | 孫の世話をする祖父母の健康と健康行動に劇的かつ広範な負の効果を持っていることを示唆する証拠は見つからなかった。孫の世話する祖母に負の影響があり、健康度自己評価が低下する可能性が高いことについて証拠を発見した。また、子育てしていると祖母にメリットがある証拠も発見した。 | Ⅳ b |
| 横断研究 | 11、葛ら（2012） | 浙江省宁波市に在住している高齢者 404 名 | ・アンケート調査 | ①孫世代に依存する程度<br>②中国心理的健康尺度 | ①一般的に見ると、高齢者が孫世代に依存する程度が中等である。<br>②孫世代に依存する程度が低ければ、高齢者の心理的健康が良い、認知機能が良い。<br>③孫の人数が少なかったら、祖父母と孫とのつながりが深い。<br>④地域によって高齢者が孫世代に依存する程度が違う。 | Ⅳ b |
| システマティックレビュー | 12、陳ら（2014） | CNKI をデータベースとして、祖父母が孫の世話するに関して文献 | ・システマティックレビュー | ①祖父母が孫の世話するメリット<br>②祖父母が孫の世話する弊害 | ①孫を中心として、家族関係が良くなるが、喧嘩になる可能性もある。<br>②祖父母の心身的健康にいい影響を与えるが、負担感がある可能性もある。そして、孫の依存症可能性もある。<br>③親の子育て負担が軽減するが、教育理念が違うため、親子関係を崩す可能性もある。<br>④祖父母は親より子育て経験が多いが、古い経験があることで、溺愛になる可能性もある。<br>⑤祖父母が別居になり、自分の生活の質が低下する可能性がある。 | Ⅰ |
| 横断研究 | 13、張ら（2016） | 孫の世話をしている高齢者 735 名 | ・アンケート調査 | ①基本属性<br>②孫の世話する状態<br>③心理的健康状態調査票 | ①孫の世話する高齢者は心理的健康が良い人が多い<br>②親と子育て理念の一致性、孫の世話する念願、慢性疾患、生活問題は孫の世話する高齢者の心理的健康に影響する要素と考えられる。 | Ⅳ b |

念の相違、孫の世話をする意欲、慢性疾患があるかどうか、半年間に衝撃的な事件があるかどうかが高齢者の精神的健康に有意差があると示された[9]。そして、「Lawtonの『孤独感・不満足感』では、Ryffの『肯定的感情』と『人生への満足』、『孫との距離』がマイナスの強い影響を、教育年数は逆にプラスの影響が認められた。」と示され[8]、つまり、孫との距離が遠い程、「孤独感・不満足感」を高めるようである。孫の世話は高齢者に生きがいをもたらし、主観的健康感と幸福感の向上や、孤独感やうつ傾向の低下させる可能性があると考えられる。

6.2 孫の存在は高齢者に悪い影響を与える

孫の世話をすることは、高齢者に悪い影響を与える可能性もある。「高齢者は子育てに参加において何らかの心配や不安のある者は374人（70.8％）であった。その内容は、複数回答で、多い項目に『自分の身体の疲労』242人（45.8％）、『自分が子育てしていた時と子育ての仕方が異なり戸惑う』238人（45.1％）、『孫の母親との育児方針の相違』98人（18.6％）、『孫がなつかない』7人（1.3％）であった。」と表された[8]。その一方で、孫に依存する可能性もある。孫が多い高齢者は孫が少ない高齢者より、孫に依存する程度が低いと示された[10]。したがって、孫の世話をする意欲が無ければ孫の世話は高齢者にとって負担となる可能性がある。また、孫を溺愛しやすく、孫と離れた場合、生きがいを失う可能性がある。したがって、孫の世話は高齢者の精神的健康に負の影響を与えることも考えられ、うつになる可能性も高める。

## Ⅳ．考　察

本研究は高齢者の主観的健康感と幸福感、うつ及び孫の世話との関係についてシステマティックレビューを行った。抽出された文献によると、高齢者が孫の世話をする場合、良い影響を受ける可能性がある一方、悪い影響を受ける可能性もある。

### １．研究の動向

システマティックレビューの結果、該当した文献が非常に少なく、13件であった。また、分類の結果によると、質が高い研究が少なく、対象者はある地域に限っているため、バイアスが出る可能性もある。今後更に収集していく必要がある。

### ２．孫の世話をすることが高齢者に与える影響について

2.1 主観的健康感

「孫との関係は、祖父母の主観的健康感と強く関連していることを示している。高齢者において、孫が果たす機能は必ずしも一様ではなく、主体となる高齢者の健康感に依存しており、自分が健康であると思う高齢者ほど孫の影響を多く受けるが、健康でないと感じている高齢者は、孫から受ける影響も少ないと考えられた」と表した[3]。したがって、高齢者は孫が自分の人生とつながり、その一体感をもって愛着心を強くしている可能性がある。孫の世話をすることは、高齢者にとって生きる意欲となり、精神的健康や主観的健康感と関連すると考えられた。その一方で、「高齢者が孫の世話をする場合、健康状態が良い、経済状況が良い、年齢が低いとストレスが低いなら、生活満足度が高める」と示され[11]、したがって、孫の存在は高齢者の精神的健康を高めることができると考えられる。なお、「孫の世話をすることによって、祖母と母親とが互いに認め合い、祖母自身が孫と関わるライフスタイルを選択し、その中で幸福感を見出していくなど、心の健康に良い影響があると考えられる。」と述べた[7]。したがって、高齢者の健康状態が良く、経済状況に心配がなく、孫育ての意欲があれば、高齢者は孫の世話を通じて、精神的健康を向上することができると考えられる。

2.2 主観的幸福感

「祖母にとっても、乳幼児期にある孫と関わることは、子どもの感性により大人の感性の若返りや喜びを生み出す効果があると思われる。遊びを中心とした孫の世話をすること

は、祖母自身の心の健康に良い影響すると考えられる。」と、宮中は述べている[7]。したがって、高齢者が孫の世話をすることにより、主観的幸福感が高まる可能性が考えられる。しかし、宮中の研究によると、祖母の健康状態、配偶者の有無、母親と育児方針の認め合い、孫の世話をする意欲が良い状態であればこそ、祖母は孫の世話が楽しく思うことが示された。

Carol らにより、「祖母が孫の世話をするによって、ストレスが多く、家族問題があり、体調が悪ければうつ傾向がある。孫の世話をするレベルが高ければ、健康状態が悪く、ストレスが高く、家庭役割に関する問題が出てくる。」と示され、孫の世話は高齢者の主観的幸福感に負の影響を与えると考えられる。その原因は、アメリカの高齢者は自分のライフスタイルがあり、孫の世話をすることは義務ではなく、負担になることである。したがって、高齢者の孫育ての意欲によって、孫の世話は高齢者に良い影響か悪い影響に与えるに関わる要素と考えられる。

2.3 うつ傾向

孫の世話をすることを通じて、高齢者の精神的健康に良い影響を与えるが、悪い影響を与える可能性もある。なお、25.8％の孫を世話している高齢者が、実は孫の世話をしたがらないと示した[9]。心理的な面では、孫の世話をするのが「喜んで引き受ける」と「やむを得ない」という二つのタイプに分けられる。前者は伝統的な家庭で、身体状況と経済状況が良いので、祖父母が孫の世話を楽しく感じられるが、後者は義務感に基づき、孫の世話について必ずしも前向きとはいえない。例えば、子どもが仕事で多忙であるため、孫の世話ができないなどにより、祖父母は仕方がなく、孫の世話を任されることになる。その結果、祖父母の負担感が強く、心理的に悪い影響になる[14]。したがって、孫の世話をする意欲によって、高齢者に悪い影響を与える可能性もあることが考えられる。そのため、高齢者の孫の世話をする意欲によって、悪い影響に変わる可能性も考えられる。

「孫の世話をすると、祖父母に経済的負担をかかる可能性があり、自分の体調管理を重視しておらず、孫の世話をすることによって自分の体調を崩した人がいる」と表した[12]。また経済状況が良くない高齢者にとって、退職してから収入が少なくなり、孫の世話をすると経済的な負担になるため、ストレスがたまる可能性があると述べた[13]。孫の世話をしている高齢者にとって、経済状況がよければ、高齢者が孫の世話を楽しむことができる一方、経済状況が良くなければ、高齢者に負担をかかる可能性がある。

## V. 結　論

今回のレビューの結果、高齢者の主観的健康感と幸福感、うつと孫の世話をすることとの関連性が明らかになった。しかし、それについての文献がまだ少なく、今後集積していく必要があると考えられる。孫の世話をすることを通じて、高齢者は生活満足度が高く、主観的健康感が高く、抑うつ程度が低くなるといった精神的健康に良い影響を与える可能性があるが、経済状況、孫の世話をする意欲、身体状況などのことによって、経済的負担、孫に依存する、ストレスがたまる恐れもある。これらを明らかにすることで、高齢者が孫の世話をすることを通じて、良い老後生活ができるアプローチが講じられる可能性が考えられた。

## Ⅵ. 謝　辞

本稿をまとめるにあたり、多くの知識や示唆をいただいた筑波大学高齢者ケアリング学研究室の皆様に感謝を申し上げます。

## Ⅶ. 参考文献

1)　日本 WHO 協会 : 世界保健機関 (WHO) 憲章，1965
2)　三徳和子，高橋俊彦，星　旦二 : 主観的健康感と死亡率の関連に関するレビュー. 川崎医療福祉学会誌 16(1)，1-10，2006
3)　橋本　翼 : 高齢者の心理的，精神的健康状態における孫の及ぼす影響～孫―祖父

母関係評価尺度を用いた検討〜．山形保健医療研究 Vol.15，21-32，2012
4) 福井次矢，吉田雅博，山口直人：Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2007．医学書院，2007
5) 藤原佳典，西真理子，渡辺直紀，他：都市部高齢者による世代間交流型ヘルスポロモーションプログラム．日本公衆衛生雑誌 9，702-714．2006
6) 芳賀博，島貫秀樹，崎原盛造，安村誠司：地域在宅高齢者のサクセスフル・エイジングとその関連要因．民族衛生 69 (1)，13-18，2003
7) 宮中文子：中高年女性（祖母）の子育て参加と心理的健康との関連について―心の健康にプラスとなる孫との関わり方．日本女性心身医学会雑誌 (6)，173-180，2001
8) 平賀明子：主観的幸福感の尺度間及び健康，財政状況，孫との関連．北星論集 (8)，9-15，2010
9) 張宝塋，韓布新：孫の世話をする高齢者の精神的健康及び毛影響する要因の研究．中国全科医学．19 (7)，835-841，2016
10) 葛国宏，陳伝峰，陳麗麗，他：高齢者は孫に依存する現状，特徴及び心理的影響．心理研究心理研究 5 (4)，58-62，2012
11) Shirley Ben Shlomo : What Makes New Grandparents Satisfied with Their Lives. Stress Health 30, 23-33，2013
12) Carol M. Musil, etc : Grandmothers and caregiving to grandchildren: continuity, change, and outcomes over 24 months. Gerontologist (2010) 51 (1) : 86-100
13) 陳路，張躍飛，陳伝峰．孫の世話に関するいい点と悪い点：祖父母，親と孫への影響．幼児教育 4，52-56，2014
14) 李賜平．今孫の世話に関する教育問題の検討．淮北石炭師範学院学報 25，137-139，2004
15) 朱柳敏．都市部孫の家庭教育に関する問題研究．黒龍江教育学院学報 32 (5)，1-4，2013

連絡先：喬　楚薇
〒 305-8574　茨城県つくば市天王台 1-1-1　総合研究棟 D310 号室
筑波大学大学院人間総合科学研究科　フロンティア医科学専攻
Tel：029-853-2984
Email：s1521277@u.tsukuba.ac.jp

# Systematic review of factors of subjective sense of well-being and happiness of the elderly related to grandchildren's care

Qiao Chuwei[1)], Hitomi MATSUDA[2)]

[1)] Department of Frontier Medical Science, Faculty of Human Science, University of Tsukuba
[2)] Faculty of Medicine, University of Tsukuba

**Purpose:** This study aimed to clarify the quality and problems of research through systematic review focusing on the subjective sense of well-being, happiness and depression of the elderly and the relationship between care of grandchildren.
**Methods:** We covered literature on elderly subjective health, happiness, depression, focused on grandchildren's care and classified the evidence level by systematic review.
**Results:** There were 13 documents extracted, there were no documents corresponding to Level II and Level III, 1 systematic review of Level I and 12 cases of Level IVb.
**Conclusion:** In the subjective sense of well-being of the elderly, feeling of subjective well-being, happiness and depression, research on relevance to grandchildren's care is still rare, so further accumulation is necessary in the future. The care of grandchildren was thought to have the significance of comprehensively linking subjective health, happiness, depression problems of elderly people and the necessity of scientific verification.

**Keywords**: elderly, grandchildren, subjective sense of well-being, subjective well-being, depression